

令和2年度 第4回大東市総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和3年3月24日（水）午前9時10分 ～ 午前9時50分

2. 開催場所 大東市役所 本庁2階 委員会室

3. 出席者（5人）

- ・大東市長 東坂浩一
- ・教育長 水野達朗
- ・教育委員 田中佐知子
- ・教育委員 太田忠雄
- ・教育委員 齊藤めぐみ

4. 事務局等出席者（12名）

- ・学校教育部長 北田吉彦
- ・学校教育部指導監 伊東敬太
- ・学校教育部総括次長兼教育政策室課長 佐々木由美
- ・学校教育部次長兼学校管理課長 清水鉄也
- ・学校教育部教育政策室課長 杉谷明子
- ・学校教育部教育政策室課長 渡邊良
- ・学校教育部教育政策室課長 新井雅也
- ・学校教育部教育研究所課長兼所長 奥村彰悟

- ・政策推進部公民連携室長兼課長 芦田雄一

- ・戦略企画部長 北本賢一
- ・戦略企画部総括次長 野村政弘
- ・戦略企画部戦略企画室課長 福田悦子

5. 案件

①大東市教育大綱の改訂について

②その他

6. その他

傍聴者 0名

7. 発言要旨

【事務局】

これより令和2年度第4回大東市総合教育会議を開催いたします。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4に基づきまして、市長と教育委員会が十分に意思の疎通を図り、本市の教育に係る課題やあるべき姿を共有し、連携して本市の教育行政に取り組むために開催するものでございます。

教育行政地方教育行政の組織及び運営に関する法律に本会議の公開に関する規定がございますので傍聴を認めさせていただいておりますが、本日は傍聴の申し込みはございません。

それでは開会にあたりまして、市長からご挨拶申し上げます。

【市長】

この1年、何よりも新型コロナウイルスとの戦いというものが続きました。そのような中で、GIGAスクール構想の推進や小中学校の休校などがありましたが、その都度対応をいただき、感謝を申し上げます。

そのような中まもなく新年度が始まります。新しく新入生を迎えることとなります。コロナ禍は引き続き大なり小なり続いているのが妥当かと思えますけれども、コロナ禍であろうとも、希望があり、そして喜びがあり、多くの経験を経て素晴らしい成長が見られる教育を提供していく責務があると感じているところでございます。

すべての子どもたちに安全で安心できる教育環境を提供する、そしてその中で学ぶ、社会性を身に付ける、そして成長できる、そういったゴールに向かって、引き続き教育委員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。開会にあたっての私の挨拶とさせていただきます。

【事務局】

議題に入ります前に配布資料の確認をさせていただきます。

《資料確認》

では早速始めてまいります。本日は今年度第4回目の会議となります。前回は教育大綱の改訂案をお示し、様々なご意見を頂戴いたしました。前回の会議の後、修正案を作成いたしまして、皆様には再度意見照会をさせていただきました。短時間にもかかわらずご確認をいただきありがとうございました。

本日は2月に実施したパブリックコメントでいただいたご意見も含めまして、教育大綱の改訂案をお示しし最終案として取りまとめたいただければと考えております。

なお本日はこの後、教育委員会の定例会が予定されているということですので、時間的にも限られておりますので、どうぞご協力のほどお願い申し上げます。

それでは大東市総合教育会議要綱の規定によりまして、議長は市長に務めていただきます。

【市長】

ただいま事務局から説明がございましたが、本日は教育大綱の最終案に対しましてのご意見を賜りまして、決定に向けて議論を進めたいと考えております。次第に基づきまして、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、教育大綱の改定について、説明をさせていただきます。

本日は前回の会議から大きく変わった部分のみを説明をさせていただきます。

まず、2月2日に行いました全議員の皆様に対する合同委員会報告会では大綱案を修正するようなご意見はありませんでした。また、2月の8日から22日の間に行ったパブリックコメントでは、お一人の

方から2件のご意見を頂戴いたしました。ご意見に対する対応は、このあと大綱改訂案の中でご説明をさせていただきます。

それでは資料1をご覧くださいませでしょうか。まず表紙が、青字の部分は前回会議からの変更箇所です。赤字につきましては、パブリックコメントを踏まえたと変更ということで、色分けをしております。

「はじめに」ということで市長の挨拶として、この5年の間に例えば、ICTやGIGAスクール構想、それから新型コロナウイルス感染症の拡大といったような変化を踏まえまして、教育におけるICTの活用可能性の必要性や、目まぐるしく変化する時代だからこそ変化に柔軟に対応し学びの個別最適化につなげていくことが重要、といったようなことを書かせていただいております。

加えまして、本市の特徴である家庭教育支援についても記載をしております。その上で、本市の教育行政は時代の変化を的確に捉え、変化を新たな教育行政の成長へと引き上げていく意識を持ち、これまで以上に教育委員会と連携し、市をあげて、本市のすべての子どもたちの学びと健やかな育ちを守ってまいります、ということで結んでおります。

続きまして、「目次」です。前回会議で、「大綱」という言葉が少しわかりにくいのではというご意見を頂戴いたしまして、「基本大綱」から「基本目標」に、「重点大綱」から「重点項目」に表記を変えております。

続きまして、2ページですが、パブリックコメントでSDGsについての考え方について、教育でも重要な観点ではないかというご意見を頂戴いたしました。それを踏まえまして、すべての子どもたちを誰一人取り残さないというSDGsの思想や、SDGsのゴールの4「質の高い教育をみんなに」と記載しております。そして、最後に国際社会の一員として子どもたちを大切に育む、と記載しております。また、SDGsのアイコンを掲載するとともに、欄外にはSDGsの解説を記載いたしました。

続きまして、3ページでは、“横を貫く視点”ということで、今回の大綱でも大きなポイントとなるところでございます。ここにつきましては、ICTをすべての取組みについて検討すべき、ということを書いているのですが、これまでの教育にとって代わるというのではなく、これまでの実践に付加するものとして、これまでの実践をさらに便利に、より効率的にするという観点で追記をさせていただきました。

続きまして、4ページでございます。こちらにつきましては、前回会議で、いじめの件数については積極的認知に努めてきた、というようなことを書かせていただいたのですが、認知件数の増加は認めながら、解決につなげる経過において、教職員がいっそう丁寧に関わるといった意識が高まっているということで、修正をさせていただきました。

その下の不登校の部分につきましては、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」というものが施行されておりますので、その法律について記載をしております。

続きまして5ページでございます。「重点項目の策定に向けて」ということでこれまでの取組みと課題をまとめたところでございます。ここでは、「自らの学びに主体的に向き合う」という文言を追加させていただきました。こちらは前回の会議で“子どもたちの主体性”の観点が必要では、というご意見をいただきましたので、こちらに反映をしたものです。

続きまして、6ページでございます。重点項目の全体像を示した図になります。前は項目を羅列した図だったのですが、もう少し関係性を明らかにしたような図に変えました。重点項目の1・2・3の取組みを重点項目4の「徹底的家庭応援」が下支えするイメージを読み取っていただけるような記載にしております。

それから右上の方に、SDGsのゴール4番目の「質の高い教育をみんなに」というアイコンをつけさせていただきました。

7ページ以降は、重点項目1・2・3・4の中身について記載をしているところです。

重点項目につきましては、前回会議において、四角で囲んでいる取組みの項目と、その下の解説文がリンクしていない、というご意見を頂戴いたしました。それを踏まえまして、上の項目と下の解説文が

リンクするような形で、文言を修正しております。

重点1につきましては、例えば、学習習慣の定着や健やかな身体づくり、それから英語学習のところが文章の中で十分に表現できておりませんでしたので、そちらを追記しております。

続きまして、重点項目2ですが、今回は7項目ございましたけれども、「セーフティーネット機関の充実」と「児童・生徒指導の推進」というのは、当然のこととしてやっていくべき事ですので、敢えてこちらに掲げるという事は控えさせていただいて、項目を7つから5つに絞りました。

その下の文章中、前回会議で、「困り感を感じている」という表現がなかなか耳慣れないというご指摘をいただきまして、「過ごしづらさ」という表現に変えております。

それからその下の「セーフティーネット」という言葉ですが、上の重点項目からは削除しておりますが、必要な観点ですので、文章では入れさせていただいております。同じく、上の項目からは「児童・生徒指導」という言葉は削除しておりますが、文章中では必要な観点として記載をしております。

それから、パブリックコメントで頂戴したSDGsの理念にも沿った多様な子どもたちを誰1人という残さない教育ということで、インクルーシブ教育のくだりで書かせていただいております。

続きまして9ページでございます。こちらにつきましては、項目の変更はございません。今回は項目と文章が連動しておりませんでしたので、小中一貫教育などの文章を追記させていただきました。さらに、パブリックコメントで、「教職員不祥事ゼロ宣言」といったご意見をいただいたのですが、「信頼される教職員をめざす」という観点で書かせていただいております。それからこのくだりでは、教職員の働き方改革といったようなことも記載をしております。

1番下ですが、こちら「学校の情報の積極的な発信」ということで、今回は項目だけしか載せていなかったのを、文章としても解説をいれました。

最後に重点項目の4です。こちらは全面的に書き換えをしております。まず標題ですが、前回会議において、「徹底的家庭応援」という言葉が大東市の取組みをよく表している言葉じゃないかというご意見をいただきまして、こちらを標題に持ってきております。解説文についても、全体的に文言の精査をしております。

また、最初の3行で、先ほど概念図でお示しをさせていただきました通り、重点1から3のすべての取組みの推進に寄与するもの、下支えするもの、ということで、徹底的家庭応援の位置づけを表現しております。

さらにその下ですが、徹底的家庭応援につきましては、企業を巻き込みながら、まち全体で、子どもたち、そして親子の育ちを支えるといったような観点から、文章を書き換えております。

加えて1番下ですが、「ネウボランド大東」ということで、本市では妊娠から18歳までの子育て支援を切れ目なく行っておりますけれども、こちらについても教育と福祉の一層の連携強化を図ることを記載させていただいております。

以上、簡単でございますが、教育大綱の改訂案でございます。

【市長】

ありがとうございました。

前回の会議で賜りました各位のご意見をうまく反映された案になっていると説明を聞きながら感じましたが、説明を受けまして各委員のご意見ご指摘等ございましたらいただきたいと思っております。

【斎藤委員】

前回の会議で発言したことが形になっていて、嬉しく思いました。特に意見はございません。

【田中委員】

私たちの意見を取り入れて下さってよくまとめられていただけて、本当にありがたいです。

また、徹底的家庭応援という言葉については、これは自分の目標というか教育委員会の方でも今後取り組みなければいけないことだと思いますので、頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

【太田委員】

ご苦労様でした。私たちのそれぞれの思いやパブリックコメントでの市民の皆様の思いなどを加味していただいて、適切に表現していただいているなと思いました。

その中で現在の社会における情勢を見ながら、ICTの活用であるとか徹底的家庭応援など、めざす方向がはっきりと表現されていると思います。

【水野教育長】

私も同感で、前回の会議の内容をうまく整合性を図りながらまとめられていると思います。

家庭教育がすべての教育の土台であるというクラシックさと、ICTといういわゆるこれからの話とが、うまく融合されていて読みやすいと思います。

【市長】

ありがとうございます。皆様のご意見をお聞きしますと、これでまとめあげていくことにご賛同いただけるような流れかと思いますが、再度確認いたしますが、それでよろしいでしょうか。

～一同、異議なし～

【市長】

私から文言の確認をしたいと思います。重点項目の2ですが、SDGsの理念に沿った「多様な子どもたち」という表現ですが、SDGsの中で謳われている表現なのか、大東市の独自の表現なのか、いかがでしょうか。

【事務局】

SDGsでは、多様性・包摂性、という言葉を使っておりますが、教育に関しては「多様な子どもたち」といった表現はしておりません。

本市の方で、インクルーシブ教育という言葉にもありますように、子どもたちを誰一人取り残さないという意味で書かせていただいております。

【市長】

「多様な子どもたち」という文言は、例えば、「一人ひとりの個性を尊重」といった言葉に再考できないでしょうか。文言の調整についてのリクエストをしたいと思いますが、委員の皆様はいかがでしょう。

～一同、異議なし～

【市長】

こういった文言の修正、最終の構成につきましては、議長である私に一任いただいでよろしいでしょうか。

～一同、異議なし～

【市長】

それでは、この最終案をもって、大綱の改訂とさせていただきます。ありがとうございました。
次に、次第4「その他」について、事務局よりお願いします。

【事務局】

「その他」としまして、前回の会議でご説明させていただきました「デザイン会議」における検討状況について、ご報告をさせていただきます。

【事務局】

それでは、説明をさせていただきます。

資料3をご覧ください。これまでの検討の経過ですが、第1回総合教育会議での提言を受けまして、市長部局と教育委員会事務局の職員による検討チームを発足させ、オンラインを活用した教育機関の創設について、これまで約5回にわたって集まりまして、またネット上でも様々な議論を重ねながら、検討してきました。

検討チームでは、次の4点に示す論点、そして社会的背景もふまえ、めざすべき方向性について検討を重ねて参りました。1点目として、教育機会確保法が施行され、多様な教育の機会の確保が努力義務となっていること、2点目として、今回のコロナ感染症等の緊急時における子どもの学習機会の継続・確保が喫緊の課題であると認識していること、3点目として、従来の一斉授業だけでは子どもの学びをより発展的に展開させていくことが難しいこと、4点目として、今後進んでまいりますGIGAスクール構想など、子どもの能力に合わせたオーダーメイドの教育を提供していける可能性が出てきていること、これらの論点および社会的背景から、より個別最適化への訴求性が高まってきているということで、子どもの多様な価値観や個々の考え方に基づいて、自ら学びを選択できる環境整備をめざし、新たな学びを選択できる教育を作っていく必要があるのではないか、との検討に至りました。

デザイン会議については、これまで2回開催しました。デザイン会議の委員構成につきましては、教育事業に造詣の深い5名の有識者で構成しており、オブザーバーとして、市長・教育長にもご出席いただいたところです。検討チームからは個別最適化した新たな教育の選択肢を創設するため、左下のイメージ図のような人数制限型PBL学習ベースのフリースクールという案をご提案したところです。

このスクールには、大きく3点の特徴があります。具体的には、個別最適化した新たな教育の選択肢の創設、オンラインの特徴を生かした効率的な基礎学習機会の提供、民間企業との連携による実践的な学びと社会性を育む場の提供、この3点を特徴として提案し、仕組みとしては大東市の自主財源で独自のプログラムを実施していくイメージとしました。

次に、デザイン会議委員からいただいたご意見をご説明します。主に7点のご意見をいただきました。1点目として、具体的なイメージをした場合に、対象者については進路選択の見込みを立てること、2点目として、運営者側のスキルというような観点から、今後大人に求められる能力というところについては、子どもが学習等の資料を求めた場合に情報などを的確に提供できる能力、あるいは子ども一人ひとりに合わせて学びをカスタマイズしてあげられる能力ではないか、という意見を頂戴いたしました。3点目としては、このフリースクールの実践として大東市に求められる役割として、新たな教育モデル、あるいはモデルになるような立ち位置の事業として、他の学校にも横展開をできるようなことをめざすこと、という意見をいただきました。4点目としては、学校の取扱いという意味で、フリースクール等に通う児童・生徒の出席認定あるいは学習評価について、制度的には可能であるということをもっと理解を深められるような推進をしていくこと、といったご意見をいただきました。5点目については、学校生活での実体験が成長には重要という観点から、オンラインだけではなく物理的に集まる機会が必要であるというご意見を頂戴しました。6点目については、子どもたちだけではなく、この事業については学校の先生にとっても未来のあるプロジェクトになるようにというご意見を頂戴しました。7

点目については、学校現場に寄り添ったスケジュールが重要であるということで、例えば、夏休み明けとするなど、現場に配慮したスケジュールとしてはどうかという意見を頂戴したところでございます。

次に、オブザーバーとして市長から大きく2点の意見をいただきました。1つ目は、既存の学校ではできないものを進めていきたい、成功体験を積み上げるようなプログラム設定が大切になるのではないかと、という意見をいただきました。2点目は、現時点で想定できる近い未来に留まらず、より長期的に10年20年の視点で未来はどうなっているのかということ、バックキャスト方式といいますか、その時代の子どもが幸せに暮らせるための能力を逆算しながら、事業を進めていくこと、というご意見をいただきました。

次に、教育長からは、大きく3点のご意見をいただいております。既存の学校と対立するものではなくて、すべての学校と、子どもと保護者にとってプラスになるような事業をめざしてまいりたい、という意見をいただきました。2点目としては、既存の学校の横展開をしていくということであれば、教員の負担増にならないような、教員の使命感との折り合いが必要ではないかと、という意見をいただきました。3点目としては、現在、社会全体が学校に求めているということが過剰になっているという現実をふまえ、このプロジェクトに期待する部分がある、という前向きなご意見をいただきました。

最後に、デザイン会議でのご意見を受けて、今後検討チームがめざしていくべき方向性についてまとめています。1点目については、世界の状況、これを短期・中期・長期などとフェーズを分けて予測をしながら、子どもたちに必要な要素、例えばプログラミングやテクノロジーなど様々ありますが、専門分野として設定をした個別最適化の教育を提供していくことをめざす、2つ目としては、取り組むべき課題を自ら設定し、未来を見据えて有効な解決策を作り出していく能力を育む教育を提供する、これらの方向を打ち出しながら、より議論を深めてまいりたいと考えております。

今後も検討内容の進捗について、総合教育会議で適宜皆様にご報告させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【市長】

ありがとうございます。少し分かりにくかったかもしれませんが、第1回の総合教育会議の議論におきまして、オンラインを活用した教育機関と言うものを創設できないか、子どもたち一人ひとりの個性に寄り添うような教育を+αで付加できないか、といった意見が出ました。その意見を踏まえて、市長部局と教育委員会事務局で検討チームを作り、どういったいわゆる個別最適な教育システムが構築できるかという検討に入りました。その検討は、5回にわたって繰り広げられ、資料のようなスキームを提案したところです。

その内容を、デザイン会議と称するその道の専門家で構成する会議でご意見をいただきました。そうすることによって、さらに実現性を高めたり、より価値の高いものにつなげていく、ということを目的としました。その議論の内容をまとめています。

まだ、「ゴールがここ」と確定しているわけではなく、「必要な教育はこれ」と確定しているわけでもありません。オンラインの学習で、画一的な教育から個別に少し付加していけるような教育の仕組みづくりという命題を、検討チームで案を作って、それをデザイン会議で議論していただいた、そして少し方向性が見えてきた、という段階だとご理解いただければよろしいかと思います。

今の事務局の説明並びに私の説明の中で、ご感想やご意見を頂きましたら、今後の議論に役立てられると思いますので、ご意見をいただければと思います。質問でも結構です。よろしくお願いいたします。

【田中委員】

デザイン会議の議論の中の対象者についてなんですが、「入り口・できる経験」というのがちょっと分かりにくかったです。これは具体的には何をさしているのか、ということと、あと1点は基礎学習とか体験型プログラムとか、学習的な計画が練られているのですが、1人の人を作るということにあたって、

コミュニケーション能力など集団でしかできないものは、今後どのようにされていくのかという疑問はちょっと残ったので、その辺は今後教えていただければありがたいです。

【市長】

ありがとうございます。

この新たな教育の仕組みづくりは現行の学校制度と並行して進みますので、委員がご懸念の部分については、既存の学校で構築しているもの、それから既存の学校で不足しているもの、そういったものを補完しあえるような仕組みを作っていきたいと考えています。

このオンラインスクールで全て完遂するという目的も、1つの趣旨としてあっても良いかと思いますが、現行の学校との補完関係だということをご理解いただいて、その中で対象者はどのようにしたらいいのかしっかり設定しなさいというのが、デザイン会議での意見だと思います。

本来事務局で説明すべきですが、私もこの場におりましたので、代わりに説明させていただきました。

【太田委員】

ぼやっとした思いで聞かせていただきました。本来なら、既存の学校で全てが完結するというのが1番だと思いますが、社会情勢の変化であるとか、いろいろな子どもたちがいるわけですから、その子たちにきめ細やかな学び舎ができたらありがたいと思います。

【齋藤委員】

今後検討チームがめざす方向性の中で、子どもたちに必要な要素として、プログラミングやテクノロジーというのは分かるのですが、「世界の状況を短期・中期・長期と分けて予測し」ところを、もう少し詳しく教えていただければと思います。

【事務局】

世界の状況というのは、現在目まぐるしく変わっているというところと、オンライン教育で世界中とつながることが今後より可能になっていくことが考えられます。短期的な部分では予測がつく未来ということで、現在進められているようなカリキュラムやプログラムの活用が考えられます。

やはり10年後というと、AIが発達し、人間が自分で考えるということよりもAIを前提とした世の中になっていくだろうということなど、今想定ができないようなことが起こってくるだろうということフェーズに分けて想定し、子どもたちが大人になった時に必要な能力を予測していく必要があるのではないか、と考えています。長期を見越した能力の開発を、今から意識して取り組む必要があると理解しているところです。

【市長】

「世界」という言葉を「社会」と読み替えてもいいかもしれません。

【教育長】

こういう議論はすごく盛り上がってきて、右に行ったり左行ったり上に行ったり下に行ったりとものすごく多様な議論が展開されていて、オブザーブさせて頂いただけでもエキサイティングだったというのが感想としてあります。

ただ、議論がどんどん拡散していただけでは事業実施ができませんので、やはりそもそもの原点として公教育に新たな選択肢を創出するんだという事と、既存の学校を否定するものではないということの2点を守りながら、日本の中でも公民連携というものは大東が先進市ですので、そのエッセンスを大いに加味して、日本の新たな教育のスタイルを作っていく、そういうところを期待しています。

【市長】

ありがとうございます。

まだまだ分かりにくい内容だと思いましたが、会議の中で集約したものがあるわけではありません。可能性ですとか、こういったものがあるといいなとか、めざすべき方向性はこちらであるべきだなとか、いろいろあると思います。本日は、議論の中身の報告です。

疑念と意見を賜りましたので、チームで磨き上げをしながら、デザイン会議にも諮り、またこの会議でもご報告を行い、進めてまいります。

それでは、これをもって本日の議事は終了させていただきました。進行を事務局に返します。

【事務局】

ありがとうございました。

大綱の改訂案につきましては、先ほど議長からもございましたとおり、文言や表現等の一部修正を行いまして、市長決裁を経て、決定をさせていただきます。決定後は委員の皆様にお知らせいたしますとともに、ホームページにてお知らせする予定です。また、今後、この大綱に基づく実施計画の策定につきましては、教育委員会事務局の方で行っていく予定と伺っております。

皆様にはお忙しい中、貴重なご意見と多大なご協力を賜り、誠にありがとうございました。

それでは、これをもちまして第4回大東市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

以上

令和 3 年 3 月 31日

大東市長

東坂 浩一

大東市教育委員会 教育長

水野 達朗